

# 道内民商ニュース

## 消費税減税を

### 実現する年に

#### 帯広民商

帯広民商は1月17日、とち館にて「26年新春役員決起集会」を開催しました。会場には役員や会員など50名が参加し、目前に迫った確定申告や選挙に向けた学習、そして団結を深める新年会が行われました。中



小業者を取り巻く環境が厳しさを増す中、仲間とともに困難を乗り越えようと決意を固める一日となりました。冒頭、志子田会長が新年のあいさつに立ち、間近に迫る解散・総選挙について

押し上げていこう」と力強く呼びかけました。また、高市政権による短期間での解散の理不尽さを指摘し、

「国民に判断させる時間を与えないまま進めようとしている」と、その政治姿勢を厳しく批判しました。来賓あいさつには、日本共産党の杉野帯広市議が登場し、

減税とインボイス制度の廃止が今まさに必要であると訴え、突然の解散総選挙となる情勢の中、「皆さんと共に全力で闘い抜く」と連帯の決意を述べられました。

記念講演は、道自治研の事務局長である三浦泰裕氏を講師に迎え、「北海道の経済と中小企業―物価高騰は自民党政府の政策が引き起こしている―」と題した講演が行われました。道内企業の倒産や休業業が過去最多ペースで増えている現状や、北海道の個人消費が冷え込んでいる実態を、具体的なデータを示して解説されました。三浦氏は「物価高騰の最大の原因は円安であり、それはアベノミクス以降の異次元緩和による『金利差』が招いたものだ」という指摘です。欧米が金利を上げる中で日本だけが上げられず、その結果、円安が大企業の利益を膨らませる一方で、中小企業や庶民を苦しめている構図が浮

き彫りになりました。「今の政治を変え、本当に中小業者のために闘う勢力を大きくしていくことが唯一の道」と講演を締めくくりました。

青山事務局長より基調報告、中島次長より「税金学習」として、全国や帯広での税務調査の実態について報告がありました。

集会の後は、なごやかに新年会が催されました。宮田常任理事が乾杯の発声を行い、会場は一気に和やかな雰囲気になりました。美味しい料理を囲んで互いの商売や暮らしについて語り合い、英気を養いました。

## 市民が健康でいられる

### まちづくりを

#### 旭川民商

昨年の旭川市長選挙の争点の一つにもなった、『寿バスカードの負担増中止を求める要請書』を旭川市に提出しました。

旭川民商も参加する『明るい旭川の会』は1月19日、「寿バスカードの負担増中止を求める要請書」を1864人分の署名とともに旭川市に提出しました（うち旭川民商は216人分）。

明るい会を代表し新婦人の金子支部長は、「私も免許証を返上しバスカードを利用しているが大変助っています。物価高であえぐ年金生活者にとって2倍もの値上がりは大変厳しく、高

加しました。はじめに小山婦人部長が「私も知らないことが多いので、このような機会に一つでも学習し夫の力になりたいと思っています。みんなが来たいと思える、知りたいことが知れる、明るく元気な婦人部にしていきましよう」と挨拶。次に道婦協の中村事務局長が、これから道内民商婦人部で取り組む「国保に傷病手当・出産手当を給付する制度の確立を求める請願」について、「協会けんぽや組合健保にはあるのに国保にはないのが創設を求めましよう。産前産後に必要な休養を取れないことは健康破壊の誘因となるし、少子化対策としても必要です」と話し、署名への協力を訴えました。また、ゲストとして参加した民商まつり実行委員長の若宮常任理事からは「家庭でも仕事でも女性の力が大事。民商全体のためにも婦人部を盛り上げてください」と挨拶がありました。婦人部活動の学習の後は、大量のピザと差入れのジュースやデザートで楽しい時間を過ごしました。



1月27日、空知民商婦人部が民商事務所にて『ピザパーティー』を行い、13名が参加しました。

1月27日、空知民商婦人部が民商事務所にて『ピザパーティー』を行い、13名が参加しました。はじめに小山婦人部長が「私も知らないことが多いので、このような機会に一つでも学習し夫の力になりたいと思っています。みんなが来たいと思える、知りたいことが知れる、明るく元気な婦人部にしていきましよう」と挨拶。次に道婦協の中村事務局長が、これから道内民商婦人部で取り組む「国保に傷病手当・出産手当を給付する制度の確立を求める請願」について、「協会けんぽや組合健保にはあるのに国保にはないのが創設を求めましよう。産前産後に必要な休養を取れないことは健康破壊の誘因となるし、少子化対策としても必要です」と話し、署名への協力を訴えました。また、ゲストとして参加した民商まつり実行委員長の若宮常任理事からは「家庭でも仕事でも女性の力が大事。民商全体のためにも婦人部を盛り上げてください」と挨拶がありました。婦人部活動の学習の後は、大量のピザと差入れのジュースやデザートで楽しい時間を過ごしました。

## 皆が来たいと思える

### 元気な婦人部に

#### 空知民商・婦人部

1月27日、空知民商婦人部が民商事務所にて『ピザパーティー』を行い、13名が参加しました。はじめに小山婦人部長が「私も知らないことが多いので、このような機会に一つでも学習し夫の力になりたいと思っています。みんなが来たいと思える、知りたいことが知れる、明るく元気な婦人部にしていきましよう」と挨拶。次に道婦協の中村事務局長が、これから道内民商婦人部で取り組む「国保に傷病手当・出産手当を給付する制度の確立を求める請願」について、「協会けんぽや組合健保にはあるのに国保にはないのが創設を求めましよう。産前産後に必要な休養を取れないことは健康破壊の誘因となるし、少子化対策としても必要です」と話し、署名への協力を訴えました。また、ゲストとして参加した民商まつり実行委員長の若宮常任理事からは「家庭でも仕事でも女性の力が大事。民商全体のためにも婦人部を盛り上げてください」と挨拶がありました。婦人部活動の学習の後は、大量のピザと差入れのジュースやデザートで楽しい時間を過ごしました。

## 新年会を拡大行動

### 北支部が加入率100%に

#### 稚内民商

1月24日、会員のお店『パブはっとり』で稚内民商新年会を開催しました。屋過ぎまで猛吹雪に大雪で道路も悪い状況でしたが、来賓を合わせて31名が参加しました。

司会の鳥取副会長による挨拶の後、中村会長が「要求を実現するには今度の選挙も大事ですが、会を大きくすることも大事。会員・読者を増やしていきたい」と挨拶。西理事による乾杯の後、吉田市議会議員から来賓から挨拶をいただきました。

後半のゲームコーナーは今年も青年部が担当。野口青年部長の進行でビンゴなどのゲームを行い、番号が読み上げられるたびに「やった」「その数字じゃない」など盛り上がりしました。上原理事による一本絞めで新年会は終了となりましたが、その後も2次会、3次会と遅くまで交流を深めました。

また同日、札幌から北商連共済会尾谷理事長が稚内入りし、共済会の拡大行動が行われました。共済パンフも使いながら未加入会員を訪問。悪天候の影響で予定していた会員を訪問できないアクシデン



会員を訪問し、うちの1名が共済会に加入となりました。さらに「ちょっと考えさせて」と加入を保留していた北支部の会員が後日加入。これにより、北支部の共済加入率が100%に達成されました。

## 小樽港を

### 軍港化するな

#### 小樽民商

今年も米海軍ミサイル駆逐艦デュレイが2月6日、友好と親善を目的に小樽港に通常入港しました。「平和な商業港の軍港化と、競争に道を開いてしまおう」と、小樽民商も参加する「米軍寄港反対小樽連絡会」はこの日、時折雪がちらつく小樽港付近で抗議集会を開き、小樽民商から青柳会長と事務局等3人が参加しました。降雪の影響で予定よりも30分早く入港・接岸された中の集会となりました。

集会には市内の民主団体、日本共産党・丸山晴美道議らが参加。「またもこの雪まつり時期に米艦が小樽港にきた。人を殺す戦争のための軍艦を、理由はどうであれ小樽港に入港させるわけにはいかない。平和な商業港を守るために声をあげよう」と訴えました。

その後参加者はシュプレヒコールで「デュレイ入港反対」「小樽港を軍港化するな」などを訴え、米艦入港に抗議しました。

その後参加者はシュプレヒコールで「デュレイ入港反対」「小樽港を軍港化するな」などを訴え、米艦入港に抗議しました。